

平成 22 年度 産業廃棄物処理業における労働安全衛生推進研修会 開催結果

平成 22 年度も、(社)全国産業廃棄物連合会からもご助力いただき、「産業廃棄物処理業における労働安全衛生推進研修会」を平成 22 年 12 月 10 日(金)に開催しました。その開催内容とアンケート結果は次のとおりです。

開催日時 平成 22 年 12 月 10 日(金)

13:30~16:30

開催場所 兵庫県民会館 9 階 902 号室

参加者数 43 名 ・ 参加企業数 32 社

概 要

1. 開会挨拶 金川 秀一
普及啓発委員会委員長・協会理事

2. 産業廃棄物処理業務に伴う危険予知及び災害防止手法

講 師 : 本田 篤仁
中央労働災害防止協会近畿安全衛生サービスセンター
専門役・安全管理士

- (1) 講義 1 「労働災害防止に向けた考え方」
- (2) 講義 2 「不安全だと気づくことが出発点」
- (3) 実技 「ゼロ災害ミーティングの進め方」
- (4) 「あなたのミスパターンは？」
- (5) 講義 3 「収集運搬作業時の災害防止予防対策」

まず、安全の目的は何か、労働災害防止の意味は何かから始まり、怪我は必ず原因があって起きるものであること、労働災害は人災である以上防げるものであり自主的な努力が大切であることが述べられました。その上で、ミスの原因よりもミスした当事者が注目される傾向があるので、個人にミスさせてしまったその背後にある要因を追求して対策を考えなければならないことが指摘されました。

それから安全衛生対策について講義が続き、全員参加型・安全先取り方式のKYT(危険予知活動)、指差し呼称、ヒヤリ・ハットの解説がされました。また、事故の予測、その原因の追及、そしてそれへの対策の検討が具体的に説明され、指差し呼称の実技練習も行って、非常に具体的・実践的な講義となりました。



3. 石綿(アスベスト)健康被害救済事業について

講 師 : 藤田 佳久
環境再生保全機構石綿健康被害救済部
情報業務課長

まず、アスベストによる健康被害について説明があり、アスベストの特性や廃棄物との関係が述べられて、被害者の救済事業が詳しく紹介されました。

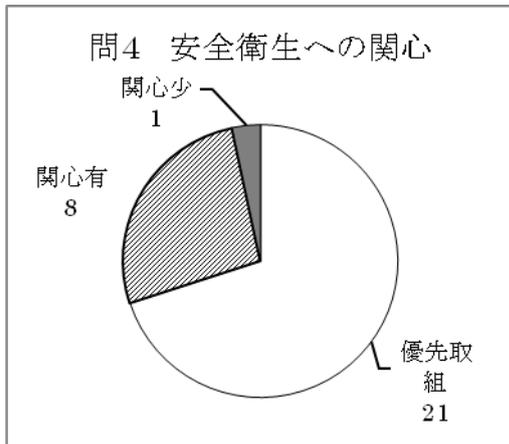
閉会挨拶 塩浦 俊信
安全衛生促進委員・協会理事

産業廃棄物処理業における安全衛生推進研修会 アンケート結果

1 アンケート回答数 31 通(72%)

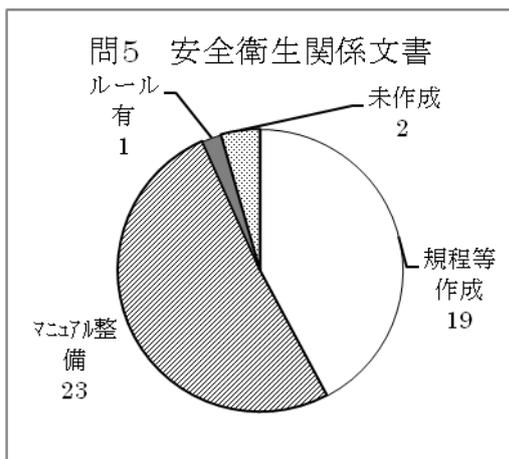
2 調査結果

【事業場トップの安全衛生に関する関心】



「優先して取り組んでいる」という回答が約 70%となり、安全衛生に対する前向きな姿勢が窺えました。特に、従業員数 30-49 人の企業では 100%が優先して取り組んでいると回答されていました。

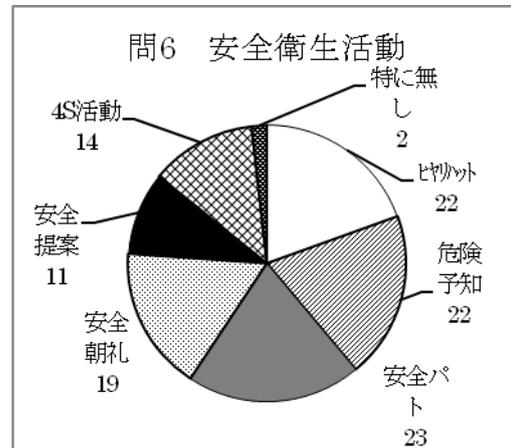
【安全衛生に関する文書類】



「作業標準書、指示書等のマニュアルを整備」と「安全衛生管理規定等を作成」の二つで 9 割以上を占めました。

(複数回答可の設問のため、アンケート総数と回答総数は一致していません)

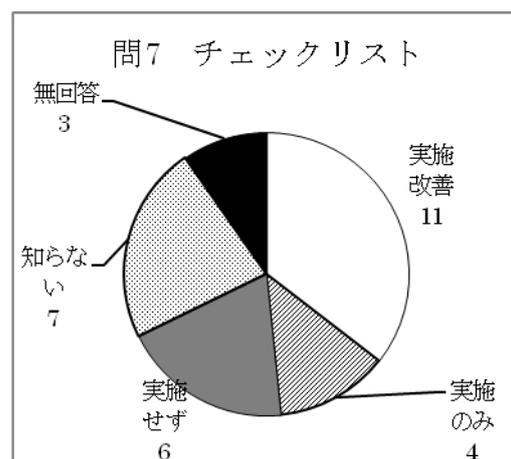
【事業場の安全衛生活動】



「安全パトロール」、「ヒヤリ・ハット報告」、「危険予知活動」、「安全朝礼」がそれぞれ高い割合となり、全体の 75%以上を占めました。また、「4S 活動」、「安全提案制度」もほぼ同じ割合で回答されており、全体として均等な割合に配分された形になりました。

(複数回答可の設問のため、アンケート総数と回答総数は一致していません)

【安全衛生チェックリスト】



「点検を実施し、改善した」と「実施した」の合計が半数近くありましたが、「実施せず」と「知らない」もまだ併せて 40%程ありました。